



第15号
発行所
近畿大学農学部緑友会
広報・編集委員会
631-8505 奈良市中町3327-204
TEL: 0742 (43) 1511
http://www.nara.kindai.ac.jp/

新しい取り組み

卒業生による現役学生キャリア支援

緑友会会長

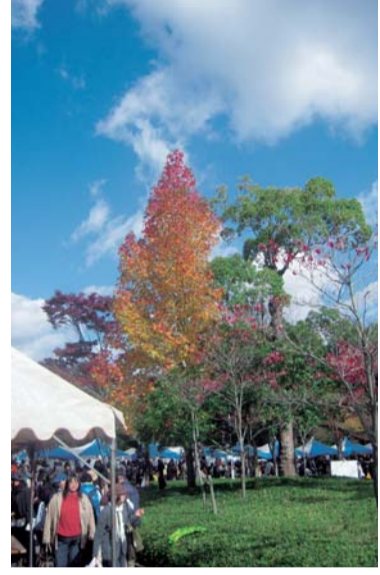
村上哲男



卒業生の皆様方におかれましてはご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は本会の運営に多大のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

新しく600名の会員が加わり、卒業生の総数は21,799人になりました。この数は近畿大学卒業生(44万人)の5%に過ぎませんが、本会は活気を呈しております。

近年、高等教育を取り巻く環境が変化中、大学の合併や提携、学部・学科の改組、短大から4年生大学へ、女子大から共学への移行等さまざまな波が押し寄せています。そのさなかにおこった世界的な金融危機、自民党から民主党への政権交代は大学経営にさらに大きな変化をもたらしています。農学部は長期的将来ビジョンのもとで5年前に学科改組を行ない目的に向かつて歩んでいます。同窓会も母校の使命達成のため、将来に向けてその姿を作り上げていかななくてはなりません。



まず組織化にあたっては卒業生の住所を把握し、常にコミュニケーションできるインフラを整備することが必要です。すでに緑友会では卒業生名簿を電子データベース化しており、約80%の卒業生の連絡先が把握できています。それをもとに毎年発行している緑友会会報を皆様にお届けしています。一方、在学生に対しては新入生歓迎会、卒業パーティー等の援助を行っていますが、学生への支援活動として同窓会組織がスポンサーとなって奨学金やキャリアサービスの提供も幹事会で検討されています。また、卒業生に対しては、図書館の開放、聴講生としての門戸の開放、卒業教育の場としての声が上がっています。今年度から新しい取り組みとして、在学生へのキャリア支援を各学科でスタートさせました。卒業生と在校生が接触する機会をもち、会社で求められるスキルなどについて話しあうものです。11月には農学部祭に合わせて、食品栄養学科の管理栄養士で組織するシンカン会でそれぞれの領域で活躍されている卒業生が、在学生、卒業生、教員を前に現在の仕事の内容と抱負について話されました。参加した学生は熱心に自身の将来を見据えて聞き入っていました。この学生たちが、また社会で活躍され、いずれは大学の支援者になってくれるものと信じています。先輩、後輩が顔を合わせ、学生の就職相談に先輩たちが応えてあげるような関係が出来れば大学にとっても有り難い話です。同窓会は、大学が旗を振ればすぐになびいてくれるものではなく、あの集まりに行くと、あいつに会えると云った期待感がないと発展しないと思います。その意味では、一歩、一歩進んで行くしかありません。

皆様方より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



改めてご挨拶申し上げます

農学部長
宇都宮 直樹

農学部緑友会の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。皆様方には平素から農学部への多大のご支援、ご鞭撻を賜り厚くお礼申し上げます。さて、世の中は不景気の状態から脱却できないままであり、学生たちの就職活動にも大きな影を落としています。できるだけ早くこのような社会的状況から抜け出ることを願うばかりです。このような状況から、入試においても受

験者数の減少が予想されましたが、平成22年度近畿大学農学部に入学を希望する受験者数は昨年度を上回り、近畿大学の中でも人気の学部として認められるようになりました。これもひとえに皆様方のおかげと感謝しております。今後は、入学してきた学生をしっかりりと教育し、不況を乗り切ることのできる能力を身につけさせることに取り組む所存です。

なお、申し遅れましたが、この10月より農学部長として再任されました。これからの2年間全力で学部発展のために努めてまいりたいと思っております。これまで以上にご指導賜りますよう、どうかよろしくお願ひ申し上げます。



学科の近況

農業生産科学科

学科長
矢野 栄二



農学部緑友会の皆様におかれましてはご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。この10月から農業生産科学科の学科長を拝命しました。微力ですが精一杯務めさせていただきますので、ご指導、ご助言よろしくお願ひ申し上げます。

まず先生方の異動につきましましてご報告させていただきます。作物資源生産学研究室の准教授として勤務いただいた菅田馨先生がこの3月末で退職されました。長い間有難うございました。その後任に講師として山根浩二先生が着任されました。作物生理学が専門で作物生産の問題に直接かかわる研究室で気鋭の研究員として今後のご活躍が期待されています。また植物感染制御工学研究室の野々村照雄先生が准教授に昇任されました。ご専門の植物保護の分野における益々のご活躍が期待されます。また今年は農業生産科学科の将来を担う若手教員の先生が海外留学されています。昆虫生態制御学研究室の香取郁夫講師がアメリカ合衆国のアリゾナ大学に3月から9月まで、園芸植物学研究室の神崎真哉講師が9月から来年の3月までの予定でオーストラリアのクイーンズランド州立農業試験場に留学されています。留学の成果を活用した研究の新たな展開に期待が高まっています。

今後新たな資格取得もからんだカリキュラムの改善、拡充に取り組み、学科の教育内容の充実を目指します。

水産学

学科長
塚正 泰之



平成22年10月から学科長を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。はじめに、教員の動向についてご紹介します。平成22年3月、40年以上にわたって本学科の教育・研究にご尽力いただいた来田秀雄先生(水族環境学)と水産研究所教授を兼務されていた宮下盛先生(水産増殖学)が定年退職され、宮下先生は水産研究所に移られました。また、畑啓生先生(水産生物学)が愛媛大学に助教として移られました。同年4月から宮下先生の後任として、滝井健二先生が水産増殖学研究室と水産研究所の教授を兼務されています。新たに採用されたのは、柳下直己先生(水産生物学、講師)と永田恵里奈先生(環境微生物学、助教)です。いずれも30歳代の気鋭の研究員であり、教育の面でもすでに大きな役割を果たされています。特に、永田先生は水産学科初の女性教員であり、本学科に新しい風を吹き込んでもらっています。水産学科は農学部で唯一、JABEE(日本技術者教育認定機構)の認定を受けています。JABEEでは、社会がどのような水産学卒業者を求めているのかに配慮し、教育内容の継続的な改善・充実を図ることが求められており、全教員が努力しているところです。盛先生(水産増殖学)が定年退職され、宮下先生は水産研究所に移られました。ご健勝とますますのご活躍をお祈り申し上げます。





新任の挨拶

農産学 作物資源生産学研究室 講師 山根 浩二

本年4月1日より農産学 作物資源生産学研究室に講師として赴任いたしました山根浩二と申します。私はこれまで神奈川県、岡山県、愛知県と関東、中国、中部で過ごしてきました。関西で過ごすのは初めてですが、非常に活気がある地域でこちらに来るのをとても楽しみにしていました。名古屋大学で学位を取得した後、名古屋大学、名城大学での研究員を経て、このたび近畿大学にお世話になることになりました。これまでは超微形態学、植物生理学、植物分子生物学的手法を用いて、植物の塩ストレス障害発現機構に関する研究を行ってきました。今後は、これらの技術や知識をフィールドに生かし、実際の農業の現場に役立つような技術開発を行っていきたくと思っております。研究者としても教育者としてもまだまだ経験が浅く、多くの至らぬ点がございますが、緑友会会員の皆様、ご指導・鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

水産学 水産生物学研究室 講師 柳下 直己

四月から講師として着任いたしました、水産生物学研究室の柳下直己と申します。京都大学で博士(農学)の学位取得後、京都府農林水産技術センター海洋センター研究員、近畿大学21世紀COE博士研究員、長崎大学環境シナ海洋資源研究センター研究員を経て現職に就いております。これまでに、主に海産魚類を対象として、分子系統学や分類学をはじめ資源生態学や遺伝育種学などに関する研究を幅広く行ってきました。魚類の生態、進化や多様性についての理解を深め、水産資源の持続的利用に役立てたいと考えております。これから、教育にも邁進したいと思っておりますので、緑友会会員の皆様、ご指導・鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

食品栄養学 栄養教育学研究室 准教授 川西 正子

今年4月より、食品栄養学科に着任しました川西正子と申します。食品栄養学科では今年度、栄養教育学研究室に私、川西、栄養機能学研究室に竹森久美子講師、臨床栄養

学研究室に安在由記契約助手、合わせて3名が着任しました。食品栄養学科は管理栄養士課程であり、現在の管理栄養士は、その職場により異なる分野の多岐にわたった専門知識、柔軟に対応できる能力、また人と関わる仕事であることから豊かな人間性が必要となります。学生の皆さんが必要な知識と能力を身につけるよう、農学部教職員の皆様、緑友会会員の皆様のご協力を賜り、学生の教育、研究活動に全力で取り組んでいきたいと思っております。ご指導の程よろしくお願ひ申し上げます。

環境管理 環境化学研究室 講師 森 美穂

本年4月より環境管理学科の森美穂と申します。環境化学研究室に赴任いたしました森美穂と申します。生まれも育ちも大阪、生粋の関西人です。これまでは微生物を用いて、内分必かく乱化学物質などの環境汚染物質の分解や、バイオマスからのエタノールやキシリトールなどの有用物質生産などの研究に携わってまいりました。「微生物に光を！」をモットーに、今後も微生物の未知なる可能性を追究し、地球環境に貢献できるような研究を展開していきたいと思っております。また、わかりやすく、記憶に残る授業を行うことができると考えております。今後は緑友会会員の皆様、ご指導のほど、よろしくお願ひ申し上げます。

環境管理 環境化学研究室 講師 森 美穂



退任の挨拶

前農産学 作物資源生産学研究室 准教授 菅田 馨

本年3月末日をもちまして、農学部を退職致しました。在職中の45年間は、教職員、学部学生、美術同好会、また、多くの卒業生の皆様にご愛お世話になり、ありがとうございました。退職後は、全ての業務から解き放たれ、やっと肩の荷が降りたと思っております。現在では時間も制限されず、自分のペースで毎日過ごしております。環境関係のボランティアの集まりに参加したり、自宅周辺の野山を歩き回り、季節の草花や風景を楽しんでおります。

前農産学 作物資源生産学研究室 准教授 菅田 馨

退任の挨拶

前食品栄養学 栄養教育学研究室 准教授 樋口 寿

緑友会会員の皆様には益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。本年3月末に農学部を退職後、小さな畑で野菜の有機栽培と無農薬に取り組みたいという思いで、畑が農学部のキャンパスに負けないくらい山の中なので、猪やアライグマ、狸などが畑で夜な夜な運動会を開催してくれそうです。最近では、害獣の忌避植物を探してはその効果を試したり、彼らとの知恵比べの毎日を楽しんでいます。以前は畑を荒らされたことと腹が立ったものですが、今気持ちに余裕が持てるようになったのも、教員生活最後の4年間を近大農学部

前食品栄養学 栄養教育学研究室 准教授 樋口 寿

退任の挨拶

前環境管理 環境化学研究室 講師 高見 晋一

本年3月末に退職、前任教職を合すると約35年間の勤務をどうにか全うすることができました。天地人の恵みに改めて感謝しながら、退職と同時に戻ってきた郷里宮崎で元気に楽しく過ごしております。とりわけ、隣の母校(高校)から毎日聞こえてくるかけ声や歓声は半世紀の時を超えて私に若さを取り戻させてくれます。

前環境管理 環境化学研究室 講師 高見 晋一

退任の挨拶

前バイオサイエンス学 作物資源生産学研究室 准教授 岡本 忠

退職後約6か月が経過し、時の早さを痛感しております。農芸化学科とバイオサイエンス学科で18年間を過ごし、

前バイオサイエンス学 作物資源生産学研究室 准教授 岡本 忠

バイオサイエンス学 分子細胞工学研究室 教授 川崎 勉

本年4月に、バイオサイエンス学科に新設されました「分子細胞工学研究室」に赴任いたしました。これまでは奈良先端科学技術大学院大学で14年間、教員として勤務しておりました。専門は植物免疫学で、「植物が病原菌を認識し防御反応を誘導する仕組み」を分子レベルで研究しています。現在でも作物生産の

15%は病害により失われています。そこで、私の研究室では研究成果を応用技術として用いることで、環境にやさしい新規な耐病性植物を開発することを目指しています。近畿大学では、学生たちが興味を持って取り組んでいける魅力あるサイエンスを展開できればと考えております。緑友会皆様のご指導・御鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。

本年3月末に農学部水産学科を退職いたしました。昭和39年4月に近畿大学農学部に入職し、農学部創設初期から共に歩んだ46年間を多くの教職員の皆様方に大変お世話になりました。奉

この他にも、教員が3名ずつ着任・退任いたしました。誌面の都合上、氏名・学科(研究室)のみのご紹介とさせていただきます。ご了承下さい。

- 「新任」 永田恵里奈 助教・水産学科 (水族環境学) 竹森久美子 講師・食品栄養学 (栄養機能学) 安在 由記 契約助手・食品栄養学 (臨床栄養学)

- 「退任」 畑 啓生 前講師・水産学 (水産生物学) 里井 恵子 前助教・食品栄養学 (栄養機能学) 大村 知英 前契約助手・食品栄養学 (臨床栄養学) 三浦 良邦 教授 トーマスCクック准教授 西垣 佐里 特任講師 橋本 健一 特任講師 (主任)

2010年4月より農学部 栄養教育学研究室に教養・基礎教育部門が開設されました。 教員4名の氏名を紹介させていただきます。



卒業生 だより & 職場紹介

全ては日本の農業のために
農学生産科学専攻(平成20年度卒)
段上 輝之

農学部で育種工学研究室に在籍して、シイタケに関する実験をしていたのが2年前。もう2年も経ったのかという気持ちと、そういえばまだ2年しか経ってないのかという気持ちと半々といったところだ。

学生時代にシイタケの実験をしていた私が就職したのは「ナント種苗株」です。シイタケの実験をしていたのに、なぜ種苗会社に就職したの？と思われるかもしれませんが、実は植物を育てることが元々好きで、趣味で盆栽をしていました。植物を育てることが好きだったこと、就職活動を通じて、農業が儲かるようにならないかと思ったりから、「農家の方々が儲かった」と言っている品種を世に送り出そうという当社の社長の言葉を受け、「ナント種苗株」に就職を決めたわけですね。

私は最後に紹介しました研究開発部の育種課に所属しています。育種課では、ある系統(母親)とある系統(父親)をかけ合わせたF1種子(子供)を創り、実際に栽培して、どんな特徴があるのかを調べたり、今ある品種を栽培して比較したりといったことをしています。そこで選ばれたF1種子が、めでたく新品種となって世に出ています。

「新品種を創る」という仕事は一朝一夕で出来るかと思いませんが、いつか農家の方々に「儲かった」と言ってもらえる品種を創って、この文章を読んで頂いている皆様の食卓に私が創った品種の野菜が並ぶことを目指して、仕事を頑張っていきたいと思っています。

食品の品質管理職
水産学専攻(平成14年度卒)
前田 理絵

私は大学時代、水族環境学研究室に所属し、思い出せばのびのびと楽しい研究生活を過ごしました。卒業後、おかげさまで、学んだことを生かせる職業に就くことができ、食品会社の品質管理職を2社経験しました。

1社目は、大阪の台所と言われる黒門市場の和食惣菜を扱う会社で、約7年間、細菌検査、工場衛生、クレーム対応などの仕事に従事しました。偶然、会社がこれから新しく品質管理室を立ち上げるところだった事から、一から作り上げ、責任ある仕事を任せてもらう事が出来、良い経験になりました。市場の伝統ある会社だったため、品質管理の仕事だけでなく、地域のお祭では、みこしを担いだり、夜店に出店したり、地元文化に触れる事ができる楽しい会社でした。1社目は退職することとなりましたが、研究室の後輩が業務を引き継いでくれ、今でも、その後の部署の発展を聞くことができ、嬉しい限りです。研究室の縁に感謝です。

先生になって本当によかった
奈良県立吉野高等学校
応用生命科学専攻(平成21年度卒)
中村 貴俊

高校理科の先生として教壇に立つてもう半年が過ぎようとしており、「中村先生」と呼ばれることにも徐々に慣れてきました。先生は人に教えるという仕事が仕事なのですが、生徒から教えるというところが非常に多く、毎日勉強三昧の日々を過ごしています。現在、私が勤めている高校は、県内でも学習や生徒指導の面でしんどい学校といわれています。最初の授業は悲惨なもので、授業を始めてもほとんどの生徒が聞く耳を持ってくれない、一人で喋っている感じで、非常に落ち込んだことを思い出します。そのような状況を打開するために、先生方に相談に乗って頂いたり、子どもたちの興味を引くような話題を考えたりして自分なりに授業の改善を重ねました。その結果が現れたのか、1学期末の授業アンケートに「中学の時は大嫌いだったけど、先生の授業をうけて理科が好きになった」という言葉を見つけたんです。努力が報われたことは嬉しかったのですが、何よりも、子どもたちの成長を感じられたのが本当に喜ばしいことでした。

栄養管理のプロとして
食品栄養学専攻(平成18年度卒)
井口 真宏

現在、私は近畿大学医学部奈良病院で管理栄養士として勤務しております。私は幼い頃は身体が弱く入院を繰り返していたこともあり、栄養



に興味を持ち、食事で病める人を健康にしたいという思いが強く病院栄養士の道を進みました。管理栄養士は「食」に関わることの全てに役割があり、提供する食事の衛生管理はもちろんのこと入院患者様全員の栄養管理、外来・入院での栄養指導、チーム医療での他職種との連携、と幅広い業務に追われている毎日ですが、私は何よりも患者様と関わる時間を大切にしています。医食同源の言葉どおり「食べることが人間が生きていくために必要なこと」であり、治療への影響は大きく、一口でも多く食べることが栄養状態の維持・向上に必要です。そのためには調理法に加えその患者様の身体、精神の状態を把握し、また信頼関係を築くことで喫食率の上昇に繋がることを積極的に病棟への訪問を心掛けています。

平成18年度の診療報酬改定で栄養管理実施加算が、また今年度からは栄養サポートチーム加算が新設され、栄養管理が医学・医療の一端を担うものとして認知され注目をされている中、管理栄養士は医療チームの一員としてより求められる「最後の教育機関」だと思っています。子どもたちに居場所を与えてあげるため、社会に貢献できるような人間を養うため、これからも全力で走り続けたいと思っています。



私の日々
ジーエルエンス株式会社(営業1課)
バイオサイエンス専攻(平成20年度卒)
大西 勝也

平成20年度に卒業し、早2年が経とうとしています。環境管理学を専攻し研究に取り組んでいた日々が懐かしく思い出されます。私は学生時代より人々の健康に貢献したいと考えており、健康生活を経営理念とする森下仁丹株式会社に就職し、現在は研究開発本部のカプセル開発部に配属され、カプセル製剤についての開発業務に取り組んでいます。

弊社はシームレスカプセルという独自のカプセル製剤技術を確認しております。シームレスというのは文字通り継ぎ目のないカプセルで、内容物に親油性、親水性の液体および粉末に至るまで様々なものを中に入れることが可能になっています。さらに皮膜成分はゼラチンだけでなく、植

物性由来の寒天やデンプンなど各種の天然ゲル化剤を用いることができ、耐熱性や耐酸性といった様々な特性を皮膜に付与することも可能で、組み合わせや新規の材料でもっとも色々な機能を持ったカプセル製剤ができるのではないかと夢を見て日々励んでいます。また、これまでラボレベルで行っていた製剤検討を生産前には製造工場での量産のテストも行います。量産テストでは設備や人が大掛かりな分、失敗のないよう入念に準備しても、もちろんいつも100%が実験室でのデータ通りに進むというものはないので、その違いや、うまくいったところ、いかなかったところをしっかりと意識し、次に活かすことを心掛けて行っています。弊社での開発業務は担当者あるいは担当チームが最初から最後まで受け持つということに私は大きく考え働いています。

働くことは簡単なことではありません。でも、難しいことでも無いのです。自分の出来る事をしっかりと見極め、出来ないことは素直に謝り手伝わってもらう。この事がもっとも大事だと私は思っています。最後になりましたが、4年間学ばせて、また、教えていただき近畿大学農学部と先生方には感謝しております。ありがとうございました。

に興味を持ち、食事で病める人を健康にしたいという思いが強く病院栄養士の道を進みました。管理栄養士は「食」に関わることの全てに役割があり、提供する食事の衛生管理はもちろんのこと入院患者様全員の栄養管理、外来・入院での栄養指導、チーム医療での他職種との連携、と幅広い業務に追われている毎日ですが、私は何よりも患者様と関わる時間を大切にしています。医食同源の言葉どおり「食べることが人間が生きていくために必要なこと」であり、治療への影響は大きく、一口でも多く食べることが栄養状態の維持・向上に必要です。そのためには調理法に加えその患者様の身体、精神の状態を把握し、また信頼関係を築くことで喫食率の上昇に繋がることを積極的に病棟への訪問を心掛けています。

一層の高度な専門知識や技術が求められています。今年度は新たに日本糖尿病療養指導士の資格を取得しました。これからも大学生活で学んだ知識をより磨き上げ患者様の健康増進に貢献していきたいと考えております。

平成22年に農学部を卒業後、株式会社扇雀館本舗に就職しました。弊社は主にキャンデーを製造しているメーカーです。スーパーマーケットやコンビニエンスストアで弊社商品を見かけられたことがありますが、私もいつしかやるのではないのでしょうか。私は現在、研究開発部で商品開発の仕事に携わっており、皆さんに喜んでいただけるキャンデーを開発すべく、日々奮闘しています。

私は、近畿大学農学部バイオサイエンス専攻卒業後、ジーエルエンス株式会社の営業職に就任しております。仕事の内容は、主に分析機器(液体クロマトグラフィーやガスクロマトグラフィーな

ど)の販売を行っております。実際に在学中にこれらの装置を扱ったことがあるかといいますが、答えはノーです。仕事を始めるにあたって1からのスタートでした。しかし、会社での研修や実際にお客様の分析を見させて頂いたり、時には逆に教えて頂いたりして、日々学習しております。弊社取り扱いの商品に関する質問は、装置だけではなく、カラムや試薬など分析に関する様々な商品を取り扱っており、様々な知識が必要だと感じております。また、お客様の層も幅広く、食品会社、製薬会社、大学、国家研究機関、環境分析会社など様々なお客様が居られます。それぞれのニーズを自分ですっきりと把握し最善の方法を提案する。このことをしっかりと受け持つということに私は大きく考え働いています。

働くことは簡単なことではありません。でも、難しいことでも無いのです。自分の出来る事をしっかりと見極め、出来ないことは素直に謝り手伝わってもらう。この事がもっとも大事だと私は思っています。最後になりましたが、4年間学ばせて、また、教えていただき近畿大学農学部と先生方には感謝しております。ありがとうございました。

最近の子どもたちには、どこか「寂しさ」を感じる事があります。ピアスや毛染めなど外見を無茶苦茶にしたり、さらに非行行為に走りたりしてしまうのは、心が弱いという、自分を強く見せようとしていっているためではないのでしょうか。しかしながら、そのような非行行為は絶対に許されるものではありません。それを教えてあげるのが先生役であり、また、高校は社会のルールなどを教えてあげられる「最後の教育機関」だと思っています。子どもたちに居場所を与えてあげるため、社会に貢献できるような人間を養うため、これからも全力で走り続けたいと思っています。

平成22年に農学部を卒業後、株式会社扇雀館本舗に就職しました。弊社は主にキャンデーを製造しているメーカーです。スーパーマーケットやコンビニエンスストアで弊社商品を見かけられたことがありますが、私もいつしかやるのではないのでしょうか。私は現在、研究開発部で商品開発の仕事に携わっており、皆さんに喜んでいただけるキャンデーを開発すべく、日々奮闘しています。

弊社はシームレスカプセルという独自のカプセル製剤技術を確認しております。シームレスというのは文字通り継ぎ目のないカプセルで、内容物に親油性、親水性の液体および粉末に至るまで様々なものを中に入れることが可能になっています。さらに皮膜成分はゼラチンだけでなく、植

物性由来の寒天やデンプンなど各種の天然ゲル化剤を用いることができ、耐熱性や耐酸性といった様々な特性を皮膜に付与することも可能で、組み合わせや新規の材料でもっとも色々な機能を持ったカプセル製剤ができるのではないかと夢を見て日々励んでいます。また、これまでラボレベルで行っていた製剤検討を生産前には製造工場での量産のテストも行います。量産テストでは設備や人が大掛かりな分、失敗のないよう入念に準備しても、もちろんいつも100%が実験室でのデータ通りに進むというものはないので、その違いや、うまくいったところ、いかなかったところをしっかりと意識し、次に活かすことを心掛けて行っています。弊社での開発業務は担当者あるいは担当チームが最初から最後まで受け持つということに私は大きく考え働いています。

働くことは簡単なことではありません。でも、難しいことでも無いのです。自分の出来る事をしっかりと見極め、出来ないことは素直に謝り手伝わってもらう。この事がもっとも大事だと私は思っています。最後になりましたが、4年間学ばせて、また、教えていただき近畿大学農学部と先生方には感謝しております。ありがとうございました。

働くことは簡単なことではありません。でも、難しいことでも無いのです。自分の出来る事をしっかりと見極め、出来ないことは素直に謝り手伝わってもらう。この事がもっとも大事だと私は思っています。最後になりましたが、4年間学ばせて、また、教えていただき近畿大学農学部と先生方には感謝しております。ありがとうございました。

平成22年に農学部を卒業後、株式会社扇雀館本舗に就職しました。弊社は主にキャンデーを製造しているメーカーです。スーパーマーケットやコンビニエンスストアで弊社商品を見かけられたことがありますが、私もいつしかやるのではないのでしょうか。私は現在、研究開発部で商品開発の仕事に携わっており、皆さんに喜んでいただけるキャンデーを開発すべく、日々奮闘しています。

弊社はシームレスカプセルという独自のカプセル製剤技術を確認しております。シームレスというのは文字通り継ぎ目のないカプセルで、内容物に親油性、親水性の液体および粉末に至るまで様々なものを中に入れることが可能になっています。さらに皮膜成分はゼラチンだけでなく、植

物性由来の寒天やデンプンなど各種の天然ゲル化剤を用いることができ、耐熱性や耐酸性といった様々な特性を皮膜に付与することも可能で、組み合わせや新規の材料でもっとも色々な機能を持ったカプセル製剤ができるのではないかと夢を見て日々励んでいます。また、これまでラボレベルで行っていた製剤検討を生産前には製造工場での量産のテストも行います。量産テストでは設備や人が大掛かりな分、失敗のないよう入念に準備しても、もちろんいつも100%が実験室でのデータ通りに進むというものはないので、その違いや、うまくいったところ、いかなかったところをしっかりと意識し、次に活かすことを心掛けて行っています。弊社での開発業務は担当者あるいは担当チームが最初から最後まで受け持つということに私は大きく考え働いています。

働くことは簡単なことではありません。でも、難しいことでも無いのです。自分の出来る事をしっかりと見極め、出来ないことは素直に謝り手伝わってもらう。この事がもっとも大事だと私は思っています。最後になりましたが、4年間学ばせて、また、教えていただき近畿大学農学部と先生方には感謝しております。ありがとうございました。

働くことは簡単なことではありません。でも、難しいことでも無いのです。自分の出来る事をしっかりと見極め、出来ないことは素直に謝り手伝わってもらう。この事がもっとも大事だと私は思っています。最後になりましたが、4年間学ばせて、また、教えていただき近畿大学農学部と先生方には感謝しております。ありがとうございました。

働くことは簡単なことではありません。でも、難しいことでも無いのです。自分の出来る事をしっかりと見極め、出来ないことは素直に謝り手伝わってもらう。この事がもっとも大事だと私は思っています。最後になりましたが、4年間学ばせて、また、教えていただき近畿大学農学部と先生方には感謝しております。ありがとうございました。

在学学生だより

大学生活で得たこと

農業生産科学科
園芸植物学研究室四回生
川合 良典

私は平成19年にこの近畿大

学農学部農業生産科学科に入
学しました。初めはどんなク
ラブやサークルがあるのだろ
うかとワクワクしていました。
しかし農学部には13個のクラ
ブと少しのサークルしかあり
ませんでした。その中で一番
楽しそうに見えたサイクリン
グ部に入りました。

始めは軽い気持ちで入部した
けれど、すぐにそんな気持ち
はなくなりました。夏休みに
は北陸に合宿に行ったりして
どんどんサイクリング部が楽
しくなっていました。

2年生になるとほとんどの
行事などは2年生が中心に
なってやらなければいけなく
なります。1年生の間は単純
に楽しんでいただけ、2年
生になってからは後輩を楽し
ませるために、いろいろなこ
とを計画し仲間と話し合いま
した。時には仲間と言いが合



私は平成19
年に近畿大学
農学部水産学
科に入学しま
した。最初は
水産学に興味
があつたわけ
ではなく、水
産学科は珍し
いと思ひこの
学校を選びま
した。しかし、
魚類関係の専
門分野を学ん
でいくうちに
魚類発生学に
興味を持ちま
した。そこで

充実した学生生活

水産学科
水産生物学研究室四回生
義本 夏君

このサイクリング部で過ご
した時間は、私にとってすこ
く大切なものです。仲間と真
剣に話し合ったことや、先輩
のきびしさや優しさ、サイク
リング部のすべてが今の私
の成長につながっています。
このクラブ、仲間に出会えた
ことに感謝したい。ありがと
う。

研究室内は「水産生物学研究
室」に入りました。研究室に
入って初めて魚を飼育し、飼
育環境によって魚が病気になる
などとして、魚の扱いは難し
いと思いました。また、実験
器具を自分で作ったり、魚に
ホルモン注射して採卵したり、
魚から卵と精子を絞って人工
授精したりと初めてのことば
かりでもとても驚きました。な
かでも一番驚いたのは、緑色
蛍光タンパク質のmRNAを
ホンモロコの卵にマイクロロ
インジェクションして卵が光つ
たことです。最初は研究をき
ちんと進めていくことができ
るかとても不安でしたが、先
生や先輩がとても丁寧に教え
てくれるので順調に研究を進
めています。研究室はとても
和気あいあいとしていて、毎
日楽しく研究しています。ま
た勉強以外では「テニス同好
会ケビン」に所属し、ほぼ毎
日授業終わりにテニスの練習
に参加していました。テニス
だけでなく、B B Q やスノ
ボー合宿などいろいろな行事
がありました。とても人数の
多い同好会なのですがみんな
仲が良く、友達がたくさん
楽しい思い出を作ることがで
きました。勉強もそれ以外も
とても充実した学生生活を
送っています。



大学生になり早くも3年半
が過ぎました。今思い返すと
あつという間でした。そして
就職活動も無事に終えること
ができ、山崎製パン(株) か
ら内定をもらえることができ
ました。就職活動を成功する
ためには、しっかりと情報の
アンテナを張っておくことが
大切だと感じました。また
チャレンジ精神を持って、失
敗を恐れないこと、面接では
笑顔を忘れないようにするこ
と、なども大切なポイントで
はないかと思っています。

現在は応用細胞生物学研究
室で、卒論研究としてヒトガ
ン由来細胞の酸化ストレス応
答の解析を研究しています。
細胞は種々のストレスを受け
た際、様々なストレス応答性
タンパク質を産生し、その生
体機能の恒常性を維持しま
す。その詳細なメカニズムや
細胞間の応答性の差異など
について解析しています。

始めは分からないことだら
けでしたが、先生方や先輩方
の教えにより研究の理解が深
まるにつれ、徐々に楽しく実
験ができるようになりました。
研究室では、バーベキュー
や飲み会、体育館を借りてス
ポーツをしたり、ゼミ旅行な
ど、いろいろなイベントがあ
るので、ゼミ生活に馴染
むことができました。どの
ゼミに所属しても、生活にメ
リハリをつけて計画性と自己
管理に注意すれば、研究とも
にもアルバイトや趣味なども
こなすことができ、学生生活
の良い思い出になると思いま
す。

学生生活を振り返ると楽し
いことや辛い事が走馬灯のよ
うに浮かんでいきます。私自身
がここまで成長できたのは私
と関わって頂いた多くの方々
のおかげだと思います。この
感謝の念を忘れずに社会に出
ても頑張っていきたいと思
います。

自分の選んだ道、選ぶ道
食品栄養学科
栄養機能学研究室四回生
直江 香織

大学生活も早いもので残り
わずかとなりました。地元
(金沢)を離れ生活する準備
を慌しくしたことがつい最近
のことのように思い出されま
す。私の第一志望は近畿大学
ではありませんでしたが、結
局入学することを選びました。
四回生になり、研究室に配
属され研究と国家試験の両立
という多忙な日々が始まりま
したが、この4年間の中で一
番充実していると感じること
ができます。研究では、新し
いことを知るたびにまた興味
がわいてくるという連続です。
与えられるのを待つのではな
く、自分から求めていくこと
によって、やりたいことができ
るという喜びと楽しさを強
く感じています。

また、大学生活では周囲の
人の存在の大きさを感しまし
た。一人暮らしによって親の
ありがたみを痛感することが
でき、私のやりたいことを何
も言わずにさせてくれた親に
感謝しています。色々指導し
てくださった先生方、そして
授業、研究、楽しいことも一
緒に味わった友達や先輩方。
この出会いがあったから大学
生活を楽しむことができました。
自分のすむ場
所のことすら
他の人に教えて
もらわなくては
いけないという
恥ずかしい状況
なのですが、そ
れでも今は、教
えてもらってい
ることで少しづ
つでも前進でき
ているのではな
いかという実感



海にふれ、海の生きものたちに感動。
城崎マリンワールド
http://marineworld.hiyoriyama.co.jp

あなたの企業のお手伝い
photo shop **イナダカメラ**
21世紀へ
ニューメディア
プリント
服部川店 八尾市服部川7丁目56
TEL 0729(41)0909/FAX 0729(41)0934
携帯 09037290909
今里店 大阪市東成区大今里4丁目21-18
TEL/FAX 06(6974)0919
代表者 稲田 忠明(農学科 昭和43年度卒)

以外でもずっと一緒にいたの
で、2回生の後半ぐらいから
は友達に会うために学校に
行っていったように思います。
また、授業の空き時間や、昼
ご飯のときの他愛もない会話
でも笑えるぐらいのしかつ
たので、多くの学生生活はと
ても楽しく、忘れられない時
間となりました。友達にはと
ても感謝しています。

今は、動物発生工学研究室
に所属しています。ほかがこ
の研究室を志望した理由は、
高校生の頃から動物発生学に
興味を持ち始め、大学の授業
で、この研究室では移植技術
でいききたいと思っています。

術によるクローン動物の作出
を行っている事を知り、もっ
とこの分野について知りたい
、そして実際にやってみたく
い、思うようになり、この研究
室に決めました。実際に実験が
始まると、朝から晩まで学校
にいるので最初は大変ですが
毎日実験していると技術の向
上が分るので楽しくなりま
す。また高度な実験で結果が
出た時は達成感でいっぱい
になります。しかし研究室の先
輩方に比べたらまだまだ足元
を磨いて、夢に向かって進ん
でいきたいと思っています。

やつと定まった目標
環境管理学科
水圏生態学研究室四回生
松本 菜摘

なんとなきこの大学に入学
して、なんとなき授業を受け
ているうちにあつという間に
3年間が過ぎていきました。さ
すがにこのような状況では学
費を出してくれている親に申
し訳がないし、せつかく大学
に入った意味がないと思ひこ
れからはしっかりとがんばら
うとは思ひましたがなかなか自
分ではどうしていいかも分か
らず、目標の定まらないまま
研究室が決まりました。

研究室内の友人達はみんな
自分が好きなことをきちんと
持っているという目標に向か
って突き進んでいて、私が余計
に焦ってしまった頃に、
先生から私の住んでいる所が
生態的にとても優れていると
いうことを教えて頂き、その
ことについて書かれた文献を
貸していただいたり、先輩が
そこで生物調査
をしていらっ
しゃつたので参
加させていただ
いたりして多く
のことを学ばせ
てもらいました。

4回生になって、これまで
の学生生活を振り返ってみる
と、とても楽しかったように
思います。それは周りの友達
がともおもしろく、気が合
うからです。これまでと違い
様々な場所から集り、様々な
価値観を持った友達が毎日一
緒にいることはとても刺激的
でした。ときには、友達の家
にみんなで泊まりこんで実験
のレポートや、試験勉強など
を一緒に教えあひながらした
こともありました。そして、
学校生活以外にも授業が終わ
ると一緒に遊びに行ったり、
夏には海に、冬にはスノー
ボードに行くなど、学校生活

大学院生 だより

大学院での生活

農業生産科学専攻 園芸植物学研究室
辻 俊彦

私は今年4月から大学院に進学しました。大学は近畿大

理学工学部応用化学科を卒業しました。応用化学科の大学院に行かず、この研究室に進学した理由は、とても些細なこと、大学生活中に知り合

いから真つ赤なマンゴーをもらい、食べた際に香りが非常に良く、とてもおいしいと思

琵琶湖固有種ピワマスを追う

水産学専攻 漁業生産システム研究室
神村 裕之

海や湖のような水中で生物の行動を観察することは非常に難しいことですが、近年バ

イオテレメトリー技術が発展し、水中で生活する生物たち

の行動や生態に関する情報を遠隔的に計測することができ

大学院に進学して

応用生命科学専攻 森林生物化学研究室
田坂 龍

大学院4年間で一番重要になってくる選択は進路決定だ

と思います。就職や進学、他にもたくさんありますが、そ

の中で私は大学院進学を選択しました。4回生のときに就

分岐点

応用生命科学専攻 栄養機能学研究室
上西 梢

私は、農学部食品栄養学を卒業し、現在は応用生命化学

専攻・栄養機能学研究室に所属しています。大学四回生

になるまでは、管理栄養士として就職し社会人となること

「水産から環境」

環境管理学専攻 水圏生態学研究室
北川 哲郎

私は現在、希少淡水魚の人工繁殖に関する研究を行って

います。人工繁殖という養殖業のイメージが強い魚種

ですが、私が研究している魚種は水産学的にはまるきり価値

学舎

バイオエクスプレックス植物発生学研究室
山田 宏機

4回生でバイオサイエンス学科の植物分子生理学研究室

に分属され、修士課程も併せると2年半を研究室で過

しました。振り返れば、この研究室生活は朝から晩まで実験に

ミネソタ研究紀行

バイオエクスプレックス動物発生学研究室
谷 哲弥

私は2009年8月から1年間の予定で、アメリカミネ

ソタ州にあるミネソタ大学幹細胞研究所で在外研究を行

ってきました。ミネソタ州はアメリカ中西部に位置し、五大



言をくださる先生や先輩、励ましてくれる友人や後輩がいました。毎日家族よりも長い時間を一緒に過ごし、時には感情を露わにして意見を交換したこともありました。しかし、ここで出会った人々と共に過

ごした楽しい時間は、私の研究室生活の何よりの宝です。現在、私はビタミンCの酸化還元状態を調節する酵素に着目し、植物の環境ストレス応答機構を分子遺伝学的に解析しています。この研究の成

10000 Lalesと書かれているように自然豊かでカーヌーやアウトドアスポーツ、ゴルフ場も数多くあることからこの州の雰囲気がおわかりいただけると思います。さらに治安は良く、社会福祉、教育、文化のレベルが高いことからアメリカ人が住みたい町として常にランクされています。

さて、私の所属する幹細胞研究所について説明します。今年オープンしたばかりの大学専用のアメリカンフットボールスタジアムの前に建物があり、33の研究チームによ

果が「砂漠でも生育可能な植物の作出」に少しでも貢献できるように、残りわずかの時間で多くの結果を出せるように頑張りたいと思います。

再生医療を柱として基礎から応用まで幅広く研究が行われています。私は、体細胞がiPS細胞に変化する際のリプログラミング機構について基礎研究を行なっています。日本のような研究室の仕切りがないオープンスペース型実験室で研究設備の共有や研究者同士の交流が活発で日々の研究がとてもスムーズに遂行できたのは、とても有意義でした。最後に、このような貴重な体験を行う機会を与えて下さいました近畿大学ならびに関係者の皆様には厚く御礼申し上げます。





農学部におけるものづくり村は、「ものづくり」という生産の場を通して農学や環境教育を充実させる、また、小学生や市民の参加を求めることにより農学部をよりアピールすることを目的に設立されました。『ものづくり村』に関する構想が提出されたのは平成18年で、平成19年から、その場所となる農学部キャンパスの西側にある山手の斜面を切り開いた土地の整

農学部 『ものづくり村』 からのご報告

備が開始されました。地面を覆っていた雑草や雑木が取り除かれ、平成20年には区画整理がなされました。『ものづくり村』の面積は17haほどありますが、現在、畑として利用されている栽培面積は8haほどです。しかし、これらの畑は作物を栽培するには十分な状態ではありません。昨年から野菜の栽培を開始していますが、土壌もまだ肥沃でなく、畑の表面には多くの石ころが転がっています。土中に埋もれている大きな石に悩まされることもあります。獣害や虫害の被害も大きく、スイカの栽培では100個ほど果実ができていますが、成熟間近にアライグマと思われる動物に全部食べられてしまっています。栽培に関しては多くの問題が残っています。



こんな状況の中で、昨年度はサツマイモが順調に育ち、『ものづくり村』として近畿大学付属小学校1年生の皆さんに収穫の場を提供することができました。大きなサツマイモを掘り出して、生徒の皆さんには十分に楽しんでいただけました。本年は、付属幼稚園児の皆さんにもイモ掘りを



楽しんでいただく予定にしております。『ものづくり村』では、このような幼稚園児や小学生にとつての体験学習の場を提供することも目標の1つにしております。食品栄養学科の先生方も近隣の幼稚園の食育の場として活用されております。



挨拶を頂き、菅野真美氏(一期生)によりKINKAN会の現状と展望(会員の職域分布や会則など)が報告されました。卒業生によるキャリア支援の一環として、在校生の今後の進路に役立つため、各職域(病院、企業、学校、行政など)で活躍している卒業生が職場の仕事内容、特徴などについて報告されました。約一時間三十分のイベントでしたが、参加者は皆一心に聞き入っていました。同窓生との横のつながりだけでなく、恩師、先輩、後輩の縦のつながりを深めることができる良い機会でありました。第二回は、この会をさらに発展させて行うことを約束して閉会しました。(青山晋也・八期生)

【卒業生によるキャリア支援】 KINKAN会は、近畿大学農学部食品栄養学科管理栄養士養成課程の卒業生で組織している会で、二〇〇七年に発足しました。この会の趣旨は卒業生の輪を広げ、お互いに情報交換を行うことを目的としています。今回、緑友会(食彩会)の支援を頂き、初めてのイベントを開催することが出来ました。参加者は会員、在校生、教員、総勢一五〇名になりました。渡辺克美食品栄養学科科長より開会の



近畿大学農学部園芸研究会 50周年記念式典開催 (2009年11月28日(土)) 近畿大学農学部園芸研究会は、先輩諸氏の努力により50年という長い歴史を作り上げ、平成21年11月28日に大阪シェラトン都ホテルにて盛大に50周年式典を開催いたしました。参加者は、120名を超えるOBと現役生に加え、歴代部長である鈴木先生、藤田先生

にもご臨席賜りました。式典では、50年という歴史の重さを感じると共に、世代を超えたOB諸氏の園研への想いがひしひしと伝わってまいりました。今回、残念ながらお仕事や体調不調などで参加できなかった方も数多くおられたと思います。園研OB会は、この先も延々と続いていくものですから、いつか、学生時代を共に園研で過ごされた方と昔話に花を咲かせ、現役の話に耳を傾け園研の先輩とどまらず人生の先輩としてアドバイスを頂ければ幸いです。

平成21年度近畿大学農学部緑友会事業報告

月日	項目	場所
4. 28	運営委員会	農学部D会議室
5. 19	終身会費納付書発送 (727通)	
6. 6	幹事会	第1会議室
	1) 平成20年度事業報告	
	2) 平成20年度決算報告	
	3) 平成21年度事業計画(案)	
	4) 平成21年度予算(案)	
	5) 幹事選出	
	6) 会報第14号の発行予定	
	7) その他	
6. 9	第1回会報編集委員会	
8. 25	在学生名簿調査完了	
8. 28	終身会費納付書2回目発送 (405通)	
9. 24	第2回会報編集委員会	第2会議室
12. 25	会報第14号会員へ発送	
平成22年		
1. 8	終身会費納付書3回目発送 (287通)	
3. 18	委員会	D会議室

平成21年度近畿大学農学部緑友会(卒業生部会)決算 (単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金	642,123	郵便費	1,243,763
終身会費(前年繰越2名分)	20,000	印刷複写費	1,360,319
終身会費	5,510,000	会議会合費	60,250
広告掲載料	60,000	人件費	1,262,853
会報印刷・郵送代の負担金(学生会より在学生分)	293,400	雑費	146,742
利息	809	終身会費返金	10,000
		支出の部計	4,083,927
		次年度繰越金	2,442,405
合計	6,526,332	合計	6,526,332

会計幹事 吉川賢太郎 会計幹事 松田 克礼
上記のとおり、監査いたしました結果適正であります。
平成22年3月31日
監事 小林 徹
武田 徹



掲示板

近畿大学農学部園芸研究会 50周年記念式典開催 (2009年11月28日(土)) 近畿大学農学部園芸研究会は、先輩諸氏の努力により50年という長い歴史を作り上げ、平成21年11月28日に大阪シェラトン都ホテルにて盛大に50周年式典を開催いたしました。参加者は、120名を超えるOBと現役生に加え、歴代部長である鈴木先生、藤田先生

卒業生の皆様には、今後ともより一層のご協力ご支援をお願いいたします。また、園研50周年を記念して農学部キャンパス内にイチヨウを植樹しました。最後になりましたが、園研OB卒業生の住所変更・お問い合わせなどは園研メール(enken@nara-kindai.ac.jp)へ連絡頂ければ幸いです。